



こどもクリニックニュース

NO. 115 平成21年7月1日発行

休診の予定

8月19日(水)～26日(水)
9月12日(土)

お盆期間の8月13日(木)～15日(土)は、通常どおりに診療します。

水曜日は「一日休診」です！

平成21年4月1日より、毎週水曜日は午前中の診療も中止して丸一日を休診といたしました。その代わりに、4月以降は一部の祝日の午前中に診療いたします。

祝日の診療予定表

7月	20日	(月)	海の日
9月	23日	(水)	秋分の日
10月	12日	(月)	体育の日
11月	3日	(火)	文化の日
	23日	(月)	勤労感謝の日
12月	23日	(水)	天皇誕生日

年内の祝日診療は今のところ上記のように計画していますが、11月以降の日程につきましては冬季の休日診療とのかね合い等で変更することがあるかもしれません。

ともなごこどもクリニック・診療カレンダー

上記の休診・祝日診療の予定(10月分まで)をカレンダーにしました。受付窓口および玄関下駄箱の上に置いてありますので自由にお持ち帰りください。11月以降のカレンダーは、冬期の小児科休日診療の当番が決まり次第作成する予定です。



院長の予定(2009年8月まで)

7月	6日	(月)	予防接種会議	保健センター
	8日	(水)	二種混合	水深小
	23日	(木)	ポリオ	保健センター
	29日	(水)	9ヶ月健診	保健センター
8月	12日	(水)	2才健診	保健センター

これらの日は午前の受付を12:00前に締め切ることがあります。また午後の診療開始時間が多少遅れることがあります。水曜日は休診ですので診療には影響ありません。

感染症の情報

水痘と流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)が、春先からずっと流行しています。特に複数の保育園での流行が目立ちます。保育園には夏休みのような長期の休みがありませんから、今後も流行が続く可能性が高いです。

これらの病気は比較的症状は軽く、患者さんは元気なのですが、周囲の子供への感染予防のために1週間～10日間程度の登校・登園禁止となります。ワクチンを接種しておけば、かからないか又は軽く済ませることができますので是非ご検討ください。当院では成人の方へのワクチン接種も行っていますので、親子一緒に水痘やおたふくかぜワクチンの接種もできますよ。

夏定番の感染症「手足口病、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱(プール熱)」が、今年はなかなか姿を見せません。少し不思議な感覚ですが夏本番はまだ先のことですので油断しないようにしましょう。

国内の新型インフルエンザの患者数は6月下旬に1,000人を突破しましたが、あまりニュースにならなくなりました。皆様が冷静になったのであれば幸いです、のど元過ぎて忘れてしまったのなら大問題です。この秋には再びインフルエンザが流行します。新型だけでなく、従来の季節性インフルエンザも毎年恒例のように流行するはずですので、今のうちに対策を考え、必要な準備をおきましょう。マスクは買いましたか?食料の備蓄はありますか?

新・日本脳炎ワクチンが発売されました。

・・・接種も再開しました・・・

6月上旬に新・日本脳炎ワクチンが発売され、下旬になって実施主体となる市町村の対応も整ったようです。先日、日本脳炎ワクチンに関する埼玉県内の予防接種相互乗り入れ制度の資料が送られてきました。ごく一部の市町村を除き、埼玉県内に住所のある方は、この制度に協力している医療機関（もちろん当院も）で日本脳炎の接種ができます。新しいワクチンの接種方法も旧ワクチンと同じく、1～4週間の間隔で2回接種し、1年後に追加接種となります。

ただし、注意することがあります。

まず、以前からお知らせしていますように、新ワクチンの製造量が十分ではありません。当院の日本脳炎ワクチンの在庫量も、6月末の時点で10人分しかありません。とりあえず申し出のあった方に対して順番に接種しますが、ワクチンの在庫が尽きたら一時終了とします。当分の間はワクチンの供給が不安定だと推測されますので、先々の予約はお断りいたします。

関東地域では日本脳炎を発病する方は極めて少ないのが実情です。急いでワクチンを接種する必要はありません。ただし、近々に九州や四国、沖縄などの日本脳炎多発地域に引っ越し、または長期滞在する予定のある方はお申し出ください。最優先で接種できるよう努力いたします。

もう一つ、**新・日本脳炎ワクチンを接種できるのは、旧ワクチンを接種したことのない幼児だけ**という条件がついています。「旧ワクチンと新ワクチンはその製造方法が異なるので、併用した場合の有効性や安全性が確認されていない」というのが表向きの理由です。そのため、今までに1回だけでも旧ワクチンを接種したことのある方は、現時点では旧ワクチンだけしか使用できません。でもその旧ワクチンもほんの少ししか流通していないので、容易には入手できないのですから、ますます混乱しそうです。

実は、この問題の裏側には現実的な事情が隠れています。それは先に触れた「ワクチンの供給量が少ない」ということです。3年以上接種を中断していたために、待たされている方が多すぎるのです。そのために暫定的にこのような措置がとられていることは否めません。でも心配しないでください。いずれは新ワクチンの製造量も増え、またその効果が確認されれば、希望するすべての方が接種できるようになるはずですよ。

あせも対策のワンポイント！！

風邪症状などで受診された際、ついでに**あせも**の薬を欲しいとお願いされることが増えてきました。そのような方の**あせも**の程度は軽い場合がほとんどなので、私は薬を処方しないで「スキンケア」で乗り切ってくださいと助言しています。**あせも**は「予防できるお肌のトラブル」なのです。

そもそも「汗」の働きは、皮膚の表面を湿らせ、乾く時に体温を下げることです。**あせも**とは、暑い時に皮膚の中にある汗腺（汗を作る組織）で大量の汗が作られているにもかかわらず、何らかの原因で皮膚の表面に出られなくなってしまい、汗が皮膚の中に溜まってしまった状態です。また汗による皮膚のかぶれや掻き壊してしまった状態まで、ひっくるめて**あせも**と呼ばれることもあります。

あせも予防のポイントは「**涼しく・清潔に！！**」です。暑い時には汗をかくのが当たり前。汗をかいた後は、ぬるめのシャワーや水浴びで汗を流し、お肌を冷やしてあげてください。水浴びは一日に何度でも構いませんが、汗を流すだけなら石鹸やシャンプーは不要です。使いすぎると皮脂が減り、かえってお肌のトラブルが増える恐れがあります。軽い**あせも**なら、このような対策だけでも治ってしまうはずですよ。それから**暑さに慣れること！**も大切ですね。

もともと湿疹やアトピー性皮膚炎がある方は、かゆみが強く悪化しやすいものです。掻き壊すほど症状がひどい時や、出血したり化膿してしまった時は、皮膚科を受診して適切な薬を処方してもらいましょう。



子どもクリニックニュースの無料郵送サービスをしています！

郵送をご希望の方は、受付でお申し込み下さい

携帯用ホームページ

